

令和7年度とうきょう すくわくプログラム活動報告書

ウィズブック保育園富士見台 I

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感を表現する言葉

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

絵本や玩具を使って日常で遊び楽しむ中で、子どもたちが興味・関心をもつ言葉・表現に着目。

例えば、車は日本語で「ブーンブン」と表現し、電車は「シュッシュポップ」と表現し言葉に表すことが多いが、なぜ言葉に違いがあるのか？なぜいくつもの表現方法があるのかに興味関心を抱いています。外国人講師のレッスンにより、同じ言葉でも表現（言葉）に違いがあることを知り、日常で遊ぶ玩具・乗り物・動物の鳴き声などの違いを知り、楽しみながら様々な表現方法に興味を示す。乗り物によっても働き方が違う事にも興味を示し、乗り物の名前も様々な名称があることに着目しその乗り物の働き方や日本語・英語の名称を探し日々の活動の中で遊びに展開していきます。

2. 活動スケジュール

- ①5月～外国人講師との関わりより、言葉や表現の違いを知り興味関心を持つ
- ②9月：働く車の役割・サイレンや発する音の違いを知る
- ③10月：実際に車の役割や働き、大きさ・音を体感しに消防署へ見学に行く
- ④2月：様々な音の出る働く車や乗り物を身近に置いておき、触って感じながら体験しやすいようにしていく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・月曜～金曜まで外国人講師によるリアルオンタイムで毎日行うレッスンの環境設定
(PC・プロジェクター・小型カメラ)

・日々の戸外活動で乗り物が見える道を散歩し、自然と興味関心が抱けるようにし、保育室内では身近に取り入れやすいように図鑑や絵本・車玩具から情報提供が出来るよう準備を行った。

最初の段階ではあえて音の出る玩具は使わず、それぞれの目で情報を入れることで『目』からの刺激を意識した活動を行った。後半は実際に『耳』からの情報導入に切り替え、音の臨場感や車の仕組みが伝わるよう工夫を行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・身近で見かける働く車の種類を知り、それらを日本語で何という名称かを絵本や図鑑を通して調べる。どの車が何の働きか尋ね、どういう音が鳴るか問う。
- ・外国人講師のレッスンで英語での名称と発音を知り、どちらも同じものを指すが言葉の違いがあることを学ぶ。日本語では車の効果音は『ブブー』だが英語では『boom』、電車の効果音は日本語だと『シュッシュポップ』、英語だと『Choo-choo』という表現を自然と獲得し表現として用いながら遊ぶようになる。

・車の働きについては一番興味を示してくれた”消防車”を実際に見学しに行き、消防士にはしご車やポンプ車の特徴を教えてもらい、消防車の細部まで見させてもらうことでより興味を深めていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・サイレンや効果音を初めは日本語表現で遊んでいたが、次第にパトカーを持って遊んでいた男児が『wee-woo wee-woo』と英語表現に切り替えたところ、次々と英語表現に切り換えて遊びだす。
- ・保育者がオンラインレッスンの中で何度も発音の練習をしていると子ども達も一緒にオウム返しの様に発音練習する姿が見られた。
- ・どの車が何という名前でどういう音を発するか、1台ずつ並べて『これはショベルカー、シャベルで土を運ぶ音がするよね』『これは救急車だから怪我した人を運ぶね。ピーポーピーポー、Wee woo wee woo って鳴らすときは急いでいるんだよ』と保育者が介入せずとも音の違いや働き方まで理解し伝え合うことが出来ていた。

●活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開可能なものを使用ください。)

※別途添付資料参照

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日々の活動の中で自然と音や車の種類、言語の違いに気づき自分たちでその違いを探そうとしていた。外国語講師の発音をよく聞き、きれいな発音で表現出来るようになり、友だち同士で遊ぶ際も発音だけではなくリズムにまで乗せてより臨場感あふれる楽しみ方が出いていた。

その中でも知らない車の名前や発音・車の動き方や性能を『知りたい』と思えるようになり、図鑑などで見て調べる工夫も習慣づくようになったことも大きな成長だと感じた。